

サマースクールの成果と 今後の取り組みについて



今年度のサマースクールには、地域の学習支援員5人、鳥取大学の学習ボランティア11人のご協力をいただきました。

サマースクールの成果

小学生が40人（107人中）、中学生が64人（115人中）、延べ536人という多くの子どもたちが参加してくれたことで、子どもたちは「本当に学びたい」と考えているということが確認できました。

子どもたちの感想の中にもあったのですが、一人で家庭学習をしているときには、分からない問題にあたることも、そのままにしてしまうという子どもがかなり多くいます。その点では、自分でやってみて難しい問題にあたったときに、そのままにしないでその場で親や先生にヒントや考え方を教えてもらうということは、とても大切なことであるということを確認しました。

このように、個々に先生が対応することで、子ども一人ひとりが自分が学んできたことを振り返り、つまづいているところの確認と修正ができたのではないかと考えています。

また小学生は4年生から6年生、中学生は1年生から3年生が一つの

場所で学習することによって、異学年の学習交流ができ、一生懸命学習している友達や上級生を見て、自分もがんばろうという姿が見えるなど、参加者にとってはよい刺激になったのではないのでしょうか。



子ども達の課題

夏休みの課題を中心に学習しましたが、各教科の学習をどのように進めていけばよいのか、学習の仕方が分からない子どもが非常に多い

ということが分かりました。たとえば、問題集だけ持参し、教科書も辞書も持ってきていない子ども、少し考えて分からない問題はそのままにしてしっかり考えようという子どもなどがあり、学習の進め方の書かれている家庭学習の手引きや学習のしおり、学習の手引きが活用されていないというところが気になりました。

また、自分で何とか解決しようという姿勢、教科書や他の本をひもついて自ら課題解決をしていることとする姿勢にかけの面があり。常に自身の勉強になっているところがあります。

基礎・基本（たとえば、漢字、基



本的な計算や英単語等）について、もっとしっかり練習して身に付けていかないと、それを活用して問題を解決していくことまでたどり着くのは難しいのです。そういう意味で家庭学習の大切さを改めて感じました。

先生方からの意見・感想

●ある程度基礎ができている子どもは、一人でこのことと問題に取り組み自分で問題解決ができますが、基礎ができていない子どもは、自分で問題解決ができません。まずは基礎・基本をしっかりと習得することが大切です。

●前学年の漢字や英単語等の定着ができていない子どもに対して、振り返って学習する場を放課後や長期休業日などを活用して設定していく必要を感じました。

●勉強は大切、もっと勉強したいという子どもがたくさんいるということが分かり、とてもうれしく感じました。
●家庭学習の大切さを改めて感じた。
●自分でどこが分からないか、どん



な点でつまづいているか、どこまで分かっているかなど、自ら説明できる子どもになってほしい。

今後の取り組みと計画

基礎・基本の定着を図り、学力向上に努めていくためには、学校で学んだことをいかに定着させていくかが一番重要です。まず家庭学習がしっかりできる環境を整えて欲しいと思います。

教育委員会では、このサマースクールの課題、ボランティアの先生の意見などを踏まえ、日々の生活の中で



「アフタースクール」的な取り組みとして、基礎・基本をしっかり身に付けていく練習・学習の場を設定することができたらと考えています。たとえば、課外の時間を利用して、地域の学習ボランティアの方に協力していただきながら実施していくというものです。

すでに、日南小学校の3・4年では9月より課外を利用して「アフタースクール」を開始しています。

また夏季休業日だけでなく、冬季休業日などにも実施できる体制をつくっていく予定です。